

# 今、なぜ語源か？

## Part 1

### —— 語源の底力

語源という言葉から何を思い浮かべますか。

筆者は、子どもの頃に、「ハマグリ」の語源は「浜栗」なのだ、という話を聞いたときのことを思い出します。

貝の「ハマグリ」は、色もかたちも「栗」のようです。「『浜』にある『栗』だから、『浜栗』なのか」。昔の人が浜に立ち、栗とハマグリを見較べる姿を思い浮かべてわくわくしました。

母語として、ふだんから日本語を使っていると、「ハマグリ」が「浜の栗」であることなんて、すっかり忘れています。でも、「浜の栗」のイメージは、ハマグリのイメージとして筆者の脳裏に焼き付いています。

初めて「ハマグリ」という単語に接するときに、「浜にある栗のような色、かたちの貝はなに？」—「ハマグリ」と覚えれば、単語を覚えやすくなり、忘れにくくもなります。

日本語の単語と同じように、英語の単語にも語源があります。「英単語の語源」というと、「浜の栗→ハマグリ」の英語版を思い浮かべる人は多いと思います。あるいは漢字の「へん(偏)」と「つくり(旁)」のようなものだと習った方もいらっしゃると思います。

でも、英語の語源というのは、私たちが、一般に日本語からイメージする「語源」より、もっと深いものです。

英語の語源は漢字の成り立ちに似ていますが、それだけではありません。

単語の使い方(語法)や、その語の持つ雰囲気、香りとてもいうべき語のニュアンス(語感)にも影響を与えています。

英語の単語は、さまざまな国の言葉から由来しています。

それは、英語の辿ってきた歴史とも関わっています。

ですから、語源に詳しい辞書には、その単語について、「いつ、どこから、どのような経路で英語に入ってきたのか」、ということが書いてあります。そういう点で、英語の語源は私たちが「浜の栗→ハマグリ」や漢字のへんとつくりのイメージから思い浮かべるものより、ずっと深いのです。

こんな書き方をすると、英語の語源は専門的でむずかしいものにも感じられますが、必ずしもそうではありません。

そんなに身構えることもないのです。Part 1では、そのことについてお話ししましょう。「語源」とはどういうもので、英語の歴史が、どのように単語の成り立ちに影響を与え、どのように役に立つのか、接頭辞・接尾辞の解説も交えながら論じていきます。